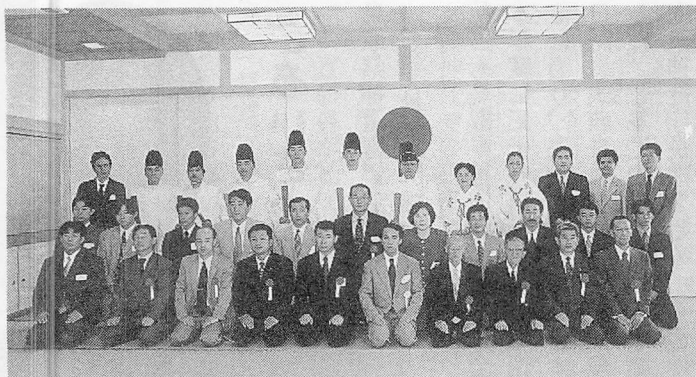




去る五月二十五日に、本会発足三十五周年記念事業が神社庁において盛大に開催されました。

式典には、米原尊昭県神社庁長、木下金治県総代会長を始め県内外から多数の方々の臨席を賜り、また、会員奉仕の奉告祭には、県女子神職会有志により舞楽奉納がなされ、厳粛のうちに華やかに斎行されました。

た。奉告祭の後、来賓の方々からの御祝辞を賜り、つづいて、第九代会長佐々木克秀氏、十代会長松田直也氏、青砥一彦前会長の各氏に本会からの記念品が手渡されました。

会場を市内のホテルに移しての懇親会では、他県からの来賓の方々も交え、情報交換あり、日頃の苦勞話ありと大いに盛り上がり、会員同志においては、本会の益々の発展と相互の研鑽を誓いあい、たいへん有意義な懇親会となりました。

発足二十五周年記念事業

平成十二年六月二十五日

鳥取神青通信

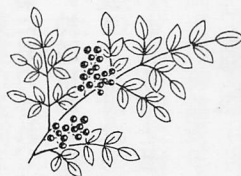
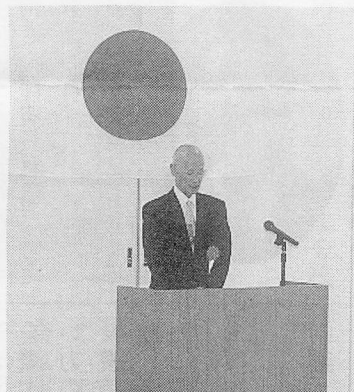
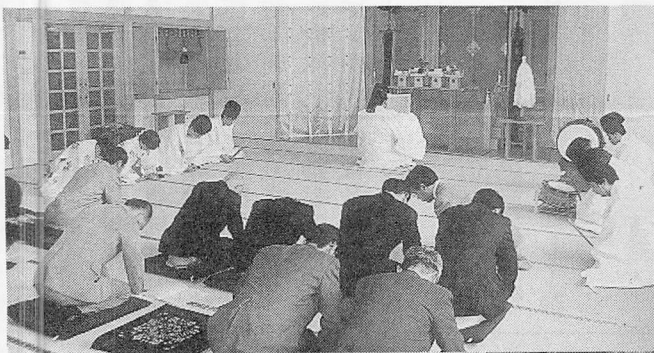
第 8 号

発行元

鳥取県神道青年会

編 集

中部青年神職会





ごあいさつ

鳥取県神道青年会

会 長 霧 林 敦

私ども鳥取県神道青年会は本年度に三十五周年を迎えるに当り、去る六月二十五日記念式典を執り行ないました。ご多忙中のところ鳥取県神社庁長様を始め、多数の御来賓の方々に遠路より御臨席を賜り、また女子神職会有志の方々にも舞楽の奉納を頂き、誠にありがとうございました。

さて、当会も発足より早くも三十五年を迎える訳ですが、この年月には数多の諸先輩方の努力と情熱によって現在に至っている事を忘れてはなりません。私ども

が今こうしてあるのも、諸先輩方の御指導・御協力を頂いたが故によるものと感謝申し上げます。

当日表彰をお受け頂いた歴代会長におかれましても、当会に於いて多大なる貢献を以て尽くされてきた方々ばかりでございます。

その残された足跡に対しまして感謝申し上げますと共に、今後とも鳥取県神道青年会の行く末を温かく見守って頂きたいお願い申し上げます。

現在、当会会員の多くは生業を持ちながら神職として神明奉仕するという、そのおかれている立場は決して楽観できない状況にあります。しかしながら、この年を節目とし、一会員各々が自覚を持って当会に参加する積極的な意志がある限り、あらゆる困難にも立ち向かっていけるものと強く確信しております。どうか今後の当会の諸活動につきましても更なる御理解を頂

き、御協力を切にお願い申し上げます。

—— — — — —

鳥取県青年神職会

三十五周年

記念式典祝辞

鳥取県神社庁長

米 原 尊 昭

本日は三十五周年の記念式典にご案内いただき、ただ今は厳肅なる奉告祭に参列し、感銘深いものがございました。

さて森首相の「天皇を中心としている神の国」発言に就いて、新聞・テレビでたびたび報ぜられましたが、神社新報では森首相の発言を全面的に支持し、マスコミや野党の攻撃に対し、激しく反撃しています。

これは五月十五日神道政治連盟国会議員懇談会結成三十周年記念祝賀会に、来賓として出席の森首相が、祝辞の中で発言されたことですが、私見を申し上げますならば、天皇様は日本国の象

徴ですから問題はありません。

日本国を旅しますと、至る所に神社のシンボルである鳥居が目につきます。それを見て、日本は神の国と感じたとしても、憲法違反でも何でもありません。

欧米という神は、一神教ですが、日本は多神教で、八百万の神との言葉もございました。

日本では神仏混合時代が存在した時代がありますが、神道では、人は死して神(霊神)になるといい、仏教では仏になると説きます。そして日本では、山川草木皆神が宿っており、森には森の神が存在し、水には水神さんがおられると考えてきました。

そこに自然を大切にする



思想が存在し、自然との共存思想が鎮守の森となり、神の使いとされる動物の存在があり、このような考え方が、地球環境に貢献するところ大なるものがあると思います。

森総理の発言には、青少年犯罪の防止は、先づ生命の大切さを強調し、先祖を敬うことが大切との考えが流れております。

森首相発言を、野党やマスコミが攻撃しましたが、それがかえって神道政治連盟の存在を、広く知らしめる結果となりましたから、内容の充実を急がねばなりません。

最後に本日の式典に敬意を表すると共に、皆様方若い力の結集に努力され、神社護持に、神道精神の発揚に、まい進されますよう、厚くお願いして祝辞と致します。



東・中・西単位の取り組み

東部若葦会

若葦会も新入会員を迎えますます活気が出てきたかなと思うこの頃です。

最近の活動としましては、恒例の夏季研修会を、去る八月十九、二十日に、鳥取市馬場に御鎮座されます「倉田八幡宮」を研修場所として開催いたしました。

最近の夏季研修会は、地区公民館とか公設の宿泊施設などを利用する事が多く、久々に神社での研修会となりましたので、失礼の無いよう少し緊張いたしました。が、いざ研修が始まれば猛暑にもかかわらず「因幡相伝楽」「祭式」等の研修に熱心に取り組む事が出来ました。

また宮司の永江則英先生には、若葦会の発足当時の貴重な話を聞き、さらに「因幡史」について講話も

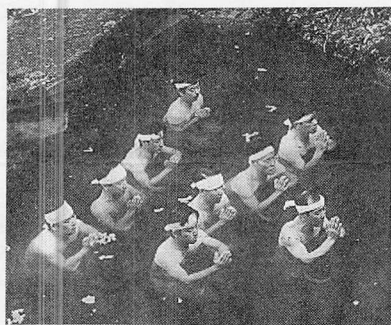
いただき、その他にも多々お世話いただき感謝するところ です。

夜は夜で、遅くまで日頃の関心事について意見の交換に熱が入り、貴重な時間を過ごしました。

さらに翌朝は、楽しみにしていた「禊」を会場の用瀬町三角山へ移動し、しっかりと日頃の罪穢れを清める事が出来ました。

準備等多少苦勞もありましたが、充実した良い研修会だったと喜んでいます。

(横山 景昭)



中部青年神職会

「鎮霊神社秋季大祭奉仕」「建国祭奉仕」、「日の丸パレード(国旗掲揚推進運動)」の三つを年中の主たる事業に据え、会員相互の研鑽と融和を目指し活動しておりますが、会員のそれぞれが兼職を持つ身となっている昨今では、参加の動員にも苦慮する場面が多くなってきました。

会員各自の自覚については疑う余地の無いところではありますが、いわゆる「宮仕え」の身、日祝日も勤務という会員も多々あり、思うに任せないのが実状であります。

しかしながら、三十五年もの間、諸先輩方が心血を注ぎ育ててこられた本会の意義を損なうことなく、会員相互の連帯感を一層深めまた、願わくば斯界の発展

に寄与できるよう気を引き締め直し、新たな事業を模索し本会の発展を目指して行きたいと存じます。

(池田 宏一)



西部青年神職会

西部青年神職会は平成十二年九月現在二十四名の会員で構成されておりますが小職を含め二三の会員を除けばいずれも他職を兼務しながらの神明奉仕というのが実情です。小職はかつて関東地区のとある県の神道青年会に在籍した経験がありますが、当時会員として実際に会合に出席し、活動

をしていたのは所謂「専業神職」の会員がほとんどで「兼業神職」の参加は非常に少なく両者の神道青年会の活動に対する意識には多分に温度差のようなものが存在していたように記憶しています。しかし当会の場合には専業、兼業の区別なくそれぞれの立場と経験を生かした運営と活動がなされ、決して一部専業神職にのみ集約される事はなく多種多様な会員どうしの相互の信頼と結束こそを組織の要諦として歩む姿は当会の一つの見識ともなっています。今後西部青年神職会は当県斯界の実情と将来を見据え、「模索して試み得る」青年神職会として奮起し、先達父祖が渾身の叡知と弛まぬ努力を重ねて継承された惟神の道統を受け継いでまいります。(木山 典明)



雑 感

鴨御祖神社宮司

佐々木克彦

自民党を支持しろ、政権を他の政党に取られると困るから、確かに神道にとって由々しき事態となろう。

しかし今の彼らに、なにをどう期待して、この国を委ねよというのか。彼らだけではない、世の中が歪み、どこか腐っている。

みはるかす沖繩の海。五十五年前、遊弋する群れなす米軍艦船に千余の特攻機が阿修羅となって突入した。若者達は、この国と民族を敗戦の破滅から救おうと、一命をなげうって殉じた。水底に火となり玉と砕けた特攻機が数多沈んでいる。彼らの魂魄は鎮まっているのか。

今日の歪んだ世情を省みると、このような国を残す為に彼らは身命を捧げたのであるうか、彼らは嘆いている、哭いている、いや憤っ

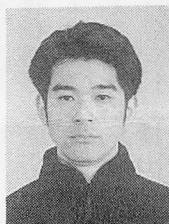
ていると思わざるをえないのだ。

貴い献身への感謝も忘れて申し訳ないことである。

新入会員紹介

氏名 櫃田 康一

(ヒツダコウイチ)

住所 米子市大篠津町二〇七九
奉務神社 和田御崎神社

昭和四十三年生まれ。昭和六十二年県立境高等学校卒業、同年上京。平成四年権正階取得。平成五年商業施設の内装施工管理会社に入社。平成十二年二月帰郷。現在建築キャドの勉強中。

今年三月にマッキントッシュG4を購入して、日中はキャドの画面と、夜はマツクスの画面と格闘中、バスフィッシングが好きで、静かな水辺で釣糸をたれてしているとちつきます。

氏名 森山理恵子

(モリヤマリエコ)

住所 淀江町小波六三一
奉務神社 三輪神社

小学校の卒業文集に、将来の夢は「神主さんになること」と書いてから十余年。

三つ子の魂百までとは良く言ったもので、気が付けば今年、春の兆しの見え始めた伊勢の地で、皇學館大學文學部神道学科を卒業し、予告通り三輪神社権称宜職を拝命致しました。

まだまだ未熟者ではありますが、なりたいたと望んでいた「神主さん」です。で、いつまでも初心を忘れず、一步一步進んでいきたいと思っています。

青年神職会の諸先輩方には、今後末永く、御指導御鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

平成11年度決算および12年度予算

〔収入の部〕

(単位：円)

科 目	12年度予算額	11年度決算額
会 費	105,000	105,000
助 成 金	212,000	212,000
雑 収 入	20,000	20,000
繰 越 金	215,689	272,314
収 入 合 計	552,689	609,314

〔支出の部〕

科 目	12年度予算額	11年度決算額
総 会 費	30,000	30,000
役 員 会 費	20,000	19,540
事 業 費	50,000	45,000
対外派遣助成費	140,000	130,000
事 務 費	25,000	10,000
神青協負担金	55,500	54,000
地 区 負 担 金	80,000	80,000
特 別 積 立 金	10,000	10,000
渉 外 費	30,000	0
予 備 費	112,189	5,085
支 出 合 計	552,689	383,625

重点目標

平成十二年度鳥取県神道青年会事業計画書

事 業

- 一、県神青通信第八号の発行（中部担当）
 - 二、単位会に於ける事業の推進
 - 三、中国地区氏青神青合同研修会等への派遣
- 一、神道青年としての意識高揚と自己研鑽の実践
 - 二、単位会会員の相互交流を進める
 - 三、神青協活動方針事業計画に基づき活動を進める